



防災だより 危機管理室 上島町防災アプリの配信を開始しました！



上島町からの様々なお知らせが、いつでも手元のスマートフォンや携帯電話で確認できるようになりました！

【平常時】イベント、お知らせなど
【災害時】火災情報や避難情報など

これまで、屋外放送やIP告知端末放送で聞き逃した情報も、ゆ

《携帯電話を利用の方》



※QRコードを読み取れない場合は、こちらのメールアドレス (register@pushsvr.bousai.town.kamijima.lg.jp) 宛に、空メールを送信してください。

っくり確認できます。ぜひ、ご利用ください！

◆インストール方法

以下リンク先より、無料でインストールできます。

※QRコードを読み取れない方は、お手持ちの端末のアプリダウンロードサイトに「上島町防災アプリ」を検索してください。

《iOSを利用の方》



《Androidを利用の方》



火災・救急・救助は



未来の消防団促進事業

10月28日（水）岩城中学校の生徒を対象に未来の消防団促進事業を行いました。この事業は、消防団員の減少・高齢化が進んでいく中、近い未来の入団を促し消防団員の若返りと地域防災力の強化を目的とした事業です。消防団長から消防団の仕事や魅力について生徒たちに説明し、生徒たちは防火衣を身にまとい放水体験や無線交信等、普段できない体験をして目を輝かせていました。



令和2年11月出動件数

地区	弓削	生名	岩城	魚島	その他	合計	R2累計
火災	0	0	0	0	0	0	2
救急	19	9	3	1	0	32	371

(令和2年11月30日現在)

上島町消防署 ☎ 77-4118

令和2年度全国統一防火標語

「その火事を 防ぐあなたに 金メダル」

岩城積善山林野火災対応訓練

11月15日（日）岩城積善山において、上島町消防団岩城方面隊と消防本部の林野火災合同訓練を実施しました。今回の訓練は、岩城方面隊66人、消防職員17人が参加し、積善山の腹にある権現山休憩所付近が延焼中との想定により実施しました。訓練では小淵北集会所にある防火水槽を水利として、積善山中腹にある権現山まで中継放水を行い、十分な放水量を確保することができました。



上島町消防出初式の中止について

令和3年1月31日（日）に予定しておりました上島町消防出初式は、新型コロナウイルスが感染拡大している状況であるため、消防団員および来賓の皆さまの健康と安全を考慮して開催を中止することといたしました。



ミカンサビダニ 黒点病

温州ミカンの収穫も終わり、中晩柑の収穫を残すのみとなりました。昨年は黒点病やミカンサビダニの被害が見られました。7、9月の黒点病防除のタイミングが難しかったこともあり、昨年は反省し今年の栽培に生かしましょう。

ミカンサビダニ
昨年も一部の園でミカンサビダニが発生しました。一昨年も発生し、注意したつもりでも被害が発生した園もあり、なかなか被害が止まらないという声もあります。令和2年は、8～9月の

生態

平均気温が年より1～2℃高く、降水量も少なかったことで発生が助長されたと考えられます。今回は、ミカンサビダニの生態や防除について説明します。

被害

ミカンサビダニの被害は、葉では新葉が変形、果実では果皮が褐変し、コルク状に硬化して商品価値を低下させます。果実被害が見えて防除を行っても、それまでに受けた被害が防除後に現れるので、一見して防除効果がなかったように見えるので注意します。

被害は、葉では新葉が変形、果実では果皮が褐変し、コルク状に硬化して商品価値を低下させます。果実被害が見えて防除を行っても、それまでに受けた被害が防除後に現れるので、一見して防除効果がなかったように見えるので注意します。

ミカンサビダニが 生しやすい気象条件

- 1 春の気温（2～4月）が高いと、越冬した成虫の生存率が高くなる。
- 2 夏の降水量が少なくなる。
- 3 秋が高湿で経過。

防除方法

基本的には防除指針に沿った防除体系で問題はないと思われます。しかし、それでもミカンサビダニの被害が発生する園では、薬剤を変えてみることも必要かと思えます。殺ダニ剤の中にはミカンサビダニに効果のある農薬といふ農薬があります。

黒点病

黒点病は防除困難な病害ではありません。6月から定期的に薬剤散布すればほぼ防ぐことができます。しかし、年による降水量の変動により散布タイミングが



ミカンサビダニ被害の果実



ミカンサビダニ成虫

安定した効果を得るためには、6～9月の間、他害虫と併せて有効な薬剤による毎月の防除が有効です。秋の気温が高ければ10月にも防除が必要になります。また、内成り果や掘成り果に被害が見られることから、散布ムラが無いよう丁寧に散布することが大切です。

早まることがあります。薬剤を散布してから降水量200mmで次の防除を行います。夏の降水量の少ない時期に防除間隔を伸ばすことなく1カ月間隔での散布が必要です。秋口に降水量が多いと小黒点が発生します。この時期は、収穫前日数の関係で品種によりジマンダイセン水和剤が使用できません。ジマンダイセン水和剤やエムタイファール水和剤、ペンコゼブ水和剤以外の薬剤は、1カ月間の効果は期待できないので、降水量100～150mmで次の防除を行うてください。